

岩手県における観光地の分類及びアクセス性について

岩手大学 学生会員 ○伊柳辰徳 岩手大学 学生会員 佐藤史弥
 岩手大学 正会員 谷本真佑 岩手大学 正会員 南正昭

1 はじめに

わが国では近年、外国人観光客が増加傾向にあるが、平成 27 年における東北地方の外国人述べ宿泊者数は約 51 万人であり、震災前の水準には回復したが全国に占める割合は 1%に満たない。これを受け国では 2016 年を東北観光復興元年と位置づけ、2020 年に東北地方の外国人宿泊者数を 150 万人とする目標を掲げている。これを受け岩手県では、観光コンテンツの磨き上げや情報発信、交通アクセスの改善を目指している¹⁾。また近年では旅行計画を立てない旅行者が増加傾向にあると言われ、それに応じた情報発信が求められている。

本研究では、岩手県にある観光地をカテゴリ別に分類し、各地域の特徴を整理するとともに、交通拠点から一定の時間内に到達できる観光地の件数をカテゴリ別に集計し、それぞれの特徴を整理する。さらに、これらの観光地情報について、交通拠点に降り立った観光客のニーズに応じた提示方法を提案する。

2 研究方法

2.1 使用データについて

本研究では、岩手県名の全 33 市町村の観光地を対象とする。観光地は、岩手県観光ポータルサイト「いわての旅」(岩手県観光協会)²⁾に挙げられているものを対象とし、2017 年 11 月現在で掲載されている観光地データを使用した。観光地データを GIS 上で分析可能な形とするため、各観光地の住所データを用い、地理情報が付与されたポイントデータを作成した。また観光庁が定めている 7 つのカテゴリ³⁾(歴史、学び、食、自然、宿泊・温泉、シンボル、レクリエーション)で各観光地を分類し、ポイントデータに反映させた。

2.2 分析手順

前節で作成したデータを基に、岩手県内の地域振興局(県央・県南・県北・沿岸)単位で観光地を集計し各地の特徴を整理した。

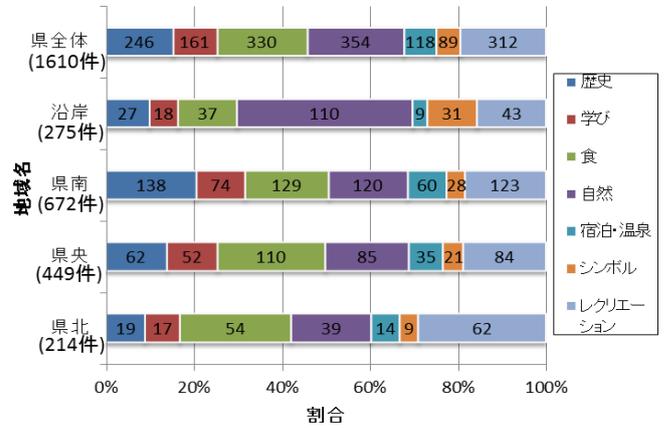


図1 岩手県全体と地域別の観光地割合

次に、遠方から岩手県を訪れる際に利用すると考えられる交通拠点から一定の時間内に到達できる観光地の数について地域振興局単位で集計し、交通拠点からのアクセス性を考慮した分析を行った。本研究での交通拠点は、岩手県内の新幹線駅・空港・高速道路 IC・フェリーターミナルとした。

最後に旅行計画を立てない旅行者が交通拠点に降り立つ状況を想定し、効果的な観光地の提示方法を提案する。

3 研究結果・考察

3.1 地域別にみた岩手県内の特徴

図1は、岩手県の地方振興局ごとに観光地数とその割合を示したものである。県央と県南の観光地数は合わせて 1000 件を上回り、県全体に占める割合は約 70%に及ぶことから観光の中心となっていると考えられる。地域別に注目すると総数にばらつきがあるものの、沿岸では自然系の観光地、県央では飲食店、県南では歴史系の観光地、県北ではレクリエーション系の観光地が高い割合を占めている傾向が読み取れる。以上から、地域によって観光地数にばらつきがみられるものの、各カテゴリの構成割合は地域で異なることが確認された。

キーワード: 外国人観光客 アクセス性 インバウンド 観光

連絡先:岩手大学工学部 岩手県盛岡市上田4丁目3-5 電話:019-621-6453 FAX:019-621-6460

3.2 交通拠点から一定時間内の観光地の特徴

本稿では、外国人旅行者が岩手県を訪れる際の行動特性を考慮し、新幹線駅からの結果を提示する。図2は岩手県内の新幹線駅8か所からの自動車で30分圏内の観光地の数を振興局ごとに示している。岩手県の新幹線は内陸を走っているため30分圏内では沿岸の観光地に到達できない様子が顕著に表れている。県北には新幹線駅（二戸駅）が立地するものの、観光地が少なさの影響もあり、県央や県南に比べると到達できる観光地が少ないことが分かる。また地域別の割合を見ていくと、県南の歴史や県北のレクリエーションで、割合が高い傾向にある。

図3は岩手県内の新幹線駅8か所からの自動車で30～60分圏内の観光地数を振興局ごとに示している。図2と比較すると、全体的に観光地の総数は少なくなっている。特に県央と県南の減少が著しく、これらの地域では、新幹線駅から30分の時間内の観光地が集中している特徴が示された。一方県北においては大きな変化は見られなかったため、広範囲に観光地が点在していると言える。また沿岸においては、わずかながら観光地数が増える結果がみられた。

この結果から岩手県内の新幹線駅からは30分圏内の場所に多くの観光地が存在していることが示された。外国人観光客にとって交通拠点から近い場所に多くの観光地や施設が存在しているのはアクセスが良いと言える。しかし、沿岸の観光地を訪れる際に多くは60分以上の時間を必要とされており、アクセス性の改善が今後の課題の一つであると考えられる。

3.3 観光客への提示

図4は、盛岡駅から自動車で30分圏内の到達圏を示したポリゴンとその範囲内にある観光地のポイントを示した図である。旅行者が交通拠点を選択した際に、視覚化した図を提示することによって行動計画を立てることが容易になる。また、カテゴリ分類もしているため旅行者のニーズにも応えることができる。これを全ての拠点で行うことで、旅行者に幅広い選択肢の提示が可能となった。

4 おわりに

本研究では、岩手県内にある観光地について、地理情報を付加したポイントデータを作成し、地域ごとの立地特性を分析した。また、交通拠点からの観光地を

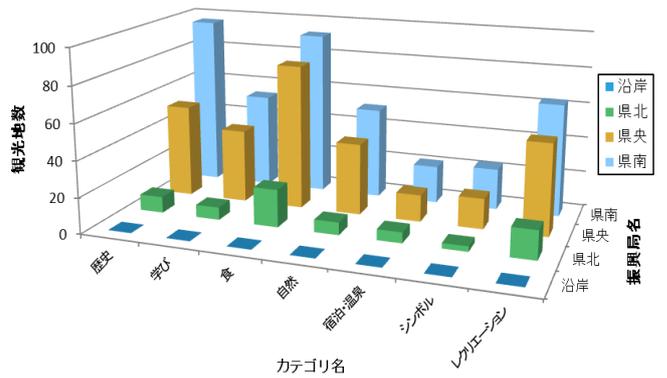


図2 全新幹線駅から30分圏内の地域ごとの観光地数

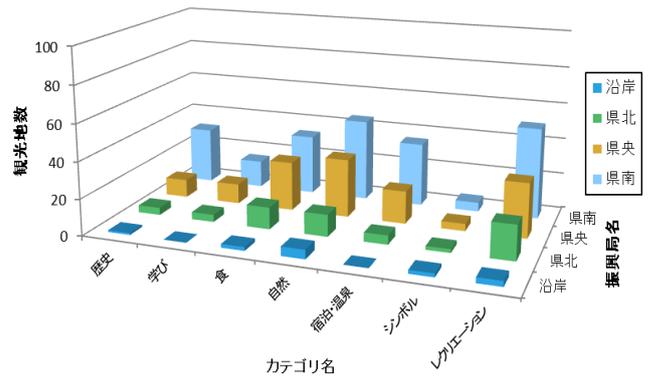


図3 全新幹線駅から30～60分圏内の地域ごとの観光地数

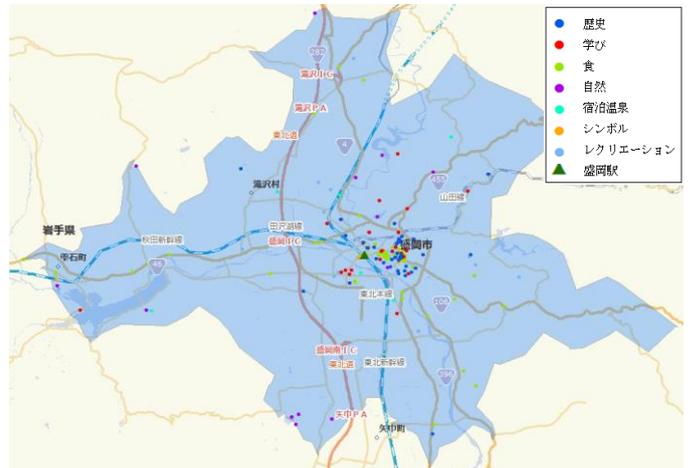


図4 盛岡駅から30分圏内における到達圏と観光地

カテゴリ別に地図で示すことで旅行計画を立てない旅行者への効果的な観光地の提示方法を提案した。

今後の課題として、観光地の提示方法に関する有用性の検証、三陸沿岸道路や復興支援道路の開通によるアクセス性の変化の分析があげられる。

参考文献

- 1)岩手県：「H28 岩手県観光復興対策実施計画」
- 2)岩手県観光協会：「岩手県観光ポータルサイトいわての旅」
<http://www.iwatetabi.jp/spot/>
- 3)観光庁：「H25 観光入込客数統計に関する共通基準」